



No.865 2025年
3月4日

国鉄労働組合東日本本部
港区新橋5-15-5 交通ビル7F
発行責任者 伊藤 隆夫
編集責任者 常盤 達雄

声かけて
仲間とTUNAG
拡大へ

第42回東日本本部拡大委員会

**大幅
賃上げ!**

**適正な
要員配置を!**

組織拡大!

**安全な
鉄道を!**



議長
松吉委員(東京)

副議長
早川委員(東京)

委員会は渡辺副委員長
の司会で始まり、議長に
は松吉委員(東京)が、
副議長には早川委員(東
京)が選出され議事に入
りました。
来賓の海渡弁護士、福
田弁護士からは、物価上
昇の時代に入るなかでの
労働組合による賃上げの
重要性、安民法制違憲訴
訟の取り組みと憲法を生
活に生かす大事さ、黒沼
さんアスベスト裁判の和
解成立についてなどが報

**2地本体制に向け
組織整備を進めよう**

国労東日本本部は2月3日に新橋交通ビルに
おいて第42回拡大定期委員会を開催しました。
国鉄世代からJR世代に組合運営が移行しつ
つある時期であり、7月の2地本体制移行を目
前に控えた重要な委員会となりました。
また、物価高騰のなか、大幅賃上げ獲得に向
け、全体が意思統一しました。

告されました。続いて国
労本部・松川委員長から
は組織拡大、25春闘、移
動する権利とローカル線
問題、平和と民主主義の
問題などが報告されまし
た。
方針提案では、25春闘
のほか多くの問題・課題
が提起され、委員の発言
からも、25春闘での大幅
賃上げに向けた取り組み、
「変革2027」による
職場の状況、離職・要員
不足の状況、グループ会
社の劣悪な労働条件、組
織拡大への取り組み、新
幹線架線トラブルに代表
される安全問題などさま
ざまな報告がされ、また、
7月に迫った2地本への
統合を柱とした、組織再
編の取り組みも多くの委
員から発言されました。
前日から行われていたJ
R世代交流会参加者の貨
物・森岡さん、東日本・
飯田さんからも特別発言
を受けました。

委員長あいさつ



**もう一人の
仲間づくりを**

(全文はHPに掲載)

委員会の開催にあたり
執行委員会を代表して挨拶
を申し上げます。
国鉄分割民営化で誕生
したJRは1月29日、旧
国鉄の存続日数1万38
18日を上回りました。
1月29日の日経新聞はJ
R発足37年10カ月の歩み
を分析。経営の視点では
本州3社の24年度の合計
純利益では7,020億
円を見込み、上場4社の
時価総額は8兆400億
円。一方で、JR北海道・
四国の「非上場組」では
営業赤字が続いていると
解剖しています。課題と
して、地方ローカル線問
題や、事故・安全対策の
問題を指摘しています。
労使関係にも触れ、とり
わけJR東日本では労働
組合組織率が大幅に落ち
込むなど、健全な労使関
係は途上だと締めくくっ
ています。

できました。共通してい
るのは不平・不満、困っ
ている・悩んでいる仲間
を放置しないことであり、
もう一人の仲間づくりを
実践した結果といえます。
本年7月1日、東北地
本・首都圏地本の2地方
本部体制へ組織再編・戦
線整備を行います。その
趣旨の1つは、点在する
JR世代の皆さんの横の
つながりを強化し、自ら
の所属する会社と自らの
労働条件についての団体
交渉を行っていただく、
労働組合運動を体現して
もらうことでもあります。
数は力。エルダー・現職
組合員一体で、もう一人
の仲間づくりに全力を上
げましょう。
2月13日、JR7社に
申し入れを行い私たちの
春闘がスタートします。
今春闘を取り巻く情勢、
要求額(案)について、
発言にて補強をいただき
たいと思います。グルー
プ会社対策としては、労
働条件引き上げに向け、
公正取引委員会「労務費
の適切な転嫁のための価
格交渉に関する指針」を
踏まえ業務発注側である
JR東日本に求めます。
また、JR貨物について
は、関東貨物協として
「人事・賃金制度」に対
するアンケートを実施し
ています。

現在、少数与党の中で
の通常国会が開催されて
います。1月30日には自
民党派閥の裏金事件の参
考人招致問題で、消極的
な自民党に対し51年ぶり
に多数決で議決をしたと
の報道がされています。
他方、戦後80年の節目
で唯一の戦争被爆国とし
て参加を期待する声が高
まっている中、政府は3
月の核兵器禁止条約第3
回締約国会議へのオブザー
バー参加見送り決定と言
われています。7月には
参議院選挙が実施されま
す。「新たな戦前」へと
強引に突き進んできた自
民党に対し、引き続き、
立憲野党の躍進に向け奮
闘しましょう。
国労が抱える課題、地
方ローカル線問題や安全・
安定輸送確立、安心して
働き続けられる労働条件
確立、そして組織の強化・
拡大など課題は山積する
中での委員会、9地本本
部体制最後の委員会とな
りますが、団結と委員の
真摯な討論にて、当面す
る闘争方針を確立してい
ただくことを願ひし、
東日本本部執行委員会を代
表しての挨拶とします。

各委員からの発言

●小泉委員・水戸地本

組織のありかたについて。水戸地本は、課題を分析しながら対話を深め、職能別2分会に再編を行った。

組織の強化・拡大について。いわき運輸区・水戸運輸区・JESS土浦管区で

国労組合員が労安委員に選出。日頃の信頼関係の結果と言える。また、労働組合が必要だというメッセージを発信している。

労働条件改善に向けた取り組み。地本大会発言をもとに申し入れ、指摘した

「TC列警が聞きづらい箇所がある」点については、すぐに支社が対応。安全問題での認識の一致も図られた。職場から声を上げ続けた成果。

水戸では、ワンマン化の増加、駅は泊まり勤務から日勤化の提案が。実態を検証し要求につなげる。

●東京・松本委員

貨物会社の現状。輪軸作業データの改ざんは貨物会社としての管理体制の問題。現場社員に責任を押し付けられないように組合が監視していく。

新人事賃金制度はモチベーションが上がらない制度。試験の合格率が下がっている、年末手当も1.62ヶ月の低額回答で退職者が増



えるばかり。労働条件改善を勝ち取る闘いを客貨一体で進めよう。

東京地本青年部では10月に長野と合同で平和学習。

11月には仙台で加入した青年と交流をし、横のつながりを進めてきた。

組織の現状。青年部は運動の引き継ぎに不安でいっぱい。学ぶ場を作ってほしい。諦めモードの雰囲気があるが若手・ベテラン一緒になって盛り上げよう。声かけから繋がりを作ろう。

●高崎・大貫委員

パートナー会社で信号設備検査。夜勤が社員は月に12回、エルダーでも8回。管理者が存在しないような職場で4連続夜勤でもおかしいと感じない職場。要員が足りない。要求して1名増えたが更に言い続ける。

地方交通線問題。高崎支社は自治体に吾妻線一部区間の協議を申し入れ。支社から利用者へのアンケートはバス転換を促すような内容。高崎地本は実態調査と

ピラ配布行動を行った。通学利用などの生活路線であり、更に運動強化を図る。25春闘。昨年のはべアでは物価に追いつかない。JR関連清掃会社ではストライキを行い、組織拡大を勝ち取る。国労もストライキを構えて闘う事が重要。

その他、組織強化・拡大、65歳以降の継続雇用について発言。

●仙台・昆野委員

JR東日本は11月に冬の繁忙期に出札窓口の拡充を発表。しかし仙台駅ではL i v i tの要員不足で実施できず。整理券システムを導入したが並ばないだけで解決にならない。

65歳以降の継続雇用問題。特定の組合員のみ採用されず。明らかな組合差別。これを許せば会社のいいなりになるだけ。闘っている裁判の支援署名への協力と、組合員資格の承認を。

ローカル線問題。陸羽東線沿線でチラシ配布と自治体要請行動実施。大崎市担当者「同じ日本に住んでいて差別されるのは納得いかない」との思いを共有した

出向先労働条件改善の取り組み。第一建設と団交開催。他の会社との道筋に。

千葉地本は本体エルダー27名。昨年は保線2職場で代表選に立候補した。大網

保技セではJR採用組合員が立候補。落選するも組合員以上の票が入ったのは国労が期待されている証。

JR東日本では輸送障害が頻発。本体でもP会社でも要員不足。一人何役もやらされ、離職が目立つ。エルダー社員を本体に配置させ、技術継承させるべき。しかし、保線のP会社ですら「今後は自動化を進めるためエルダー社員はいらない」と言われ、清掃業務に就かされた。中には「うち

は中小企業だから年休は取らないでほしい」と言われた人も。要員不足の中でも、エルダーのあと雇用継続されない問題がある。

東京・坂本委員 JRバス関東では、インバウンド需要もあり、路線も回復し増収となっている。しかし、会社は赤字を前面に出し、人件費を抑制。低額な一時金と、圧縮行路で劣悪な環境が作り出され、職場を去っていく仲間が後をたたない。退職を無くすためにも諸課題を解決しながら、組織拡大へ集約することが求められている。分会も現役1名とエルダー

●長野・平林委員

松本運輸区分会7名はいずれもエルダー出向。とにかく低賃金。年間休日も本体より4日少なく、制服貸与も最低限。組合としての協約が無いため、訓練会などの際に現場長に提案して

いる。目立った改善はできていないが、国労の存在感を示したい。グループ会社との協約締結検討を求める。

中南信支部では、無所属や他労組の社員に声をかけ、ソフトボールやバーベキューで親睦。乗務員から複数業務掛け持ちの実態を聞く。

組合の必要性を感じている若手もいる。組合が一つにまとまることも必要では。貨物職場では、貨物列車の空転・遅延が問題に。運転士に問題があるといわんばかり。旅客会社に線路脇の木を伐採を要請するが進んでいない。

危険個所や老朽機械の更新などは、労安で取り上げ改善を図る。

昨年、幹線台車科では更なる部外委託。不安があったので、熟練のエルダー社員の配置を要請。更に委託拡大の提案がある。新幹線の輸送障害が続いている。安全な車両を出すため、反対する立場で取り組む。

過半数代表選では、東労組と意思統一し投票。国労から一名が労安委員に。環境改善も図られつつあり、所長からは車両の安全についても話したいとの発言。新入社員の実習方法なども議論したい。

昨年2名が連続して国労加入。悩んだり困ったりしている仲間を一人にしないことが国労の強み。

東京・本間委員 JESS・武蔵増戸駅所属。仕事は比較的にんびり。JESSの問題はさまざまあるが、私の場合でいうと、あと10年くらいすると基本給が頭打ちになる。その後は管理職にならないければ上がらなくなる。今の若手社員だと、40歳から45歳で頭打ちになる。将来展望が見えないことから退職を選ぶ人も多数いる。

●秋田・宮崎委員

若手組合員が、職場内の休憩時間に組合未加入者にアンケートを依頼した件で、現場長から叱責を受ける事象があった。東労組がさんざんやり、社友会は時間中に堂々とやっている。問題は、こうした行為が違反になるということを誰も教えてくれなかったこと。JR世代組合員教育の必要性がある。検討を。

12月に角館〜大曲間でこまちが倒木で長時間停車。社用車でお客様を大曲駅までピストン輸送。緊急時とはいえ、乗車券が払戻されていない状態での輸送は白タクと変わらず、コンプライアンス違反の心配が。

職場で国労組合員は一人。おかしいと感じたことを、未加入者を巻き込んで発信している。私の組合活動の一つ。これからも発信し続ける。



たいない。JESSにいても乗務員を経験できる道を切り開けないかと思う。その他にも働く環境には様々な問題があり、交渉で社員が長く働ける会社にしていきたい。

八王子支店では3名が3月で退職し同業他社へ。いずれも「乗務員になりたい」という理由。鉄道会社について、乗務員になれず同業他社に持っていかれるのはもっ

ていられない。

八王子支店では3名が3月で退職し同業他社へ。いずれも「乗務員になりたい」という理由。鉄道会社について、乗務員になれず同業他社に持っていかれるのはもっ

ていられない。

八王子支店では3名が3月で退職し同業他社へ。いずれも「乗務員になりたい」という理由。鉄道会社について、乗務員になれず同業他社に持っていかれるのはもっ

ていられない。

八王子支店では3名が3月で退職し同業他社へ。いずれも「乗務員になりたい」という理由。鉄道会社について、乗務員になれず同業他社に持っていかれるのはもっ

ていられない。

八王子支店では3名が3月で退職し同業他社へ。いずれも「乗務員になりたい」という理由。鉄道会社について、乗務員になれず同業他社に持っていかれるのはもっ

ていられない。



●千葉・嶋田委員

千葉地本は本体エルダー27名。昨年は保線2職場で代表選に立候補した。大網

●盛岡・及川委員

25春闘について。物価の伸びに賃金が追いつかない。昨年以上の賃上げを。一方で春闘期の学習会や地区集会などにも必要になる。交渉を行うエリアを後押しするため、団結を強化しよう。

2 地本再編で運動が停滞することがないよう、書記の業務の強化も求められる。JR世代の声に耳を傾けてより良い体制作りが必要。分会の統合と事務所廃止に備え、メール発信やツナグアプリ登録拡大に取り組む。

政治とカネの問題で自公政権が過半数割れ。未だ裏金問題は明確な説明が無い。参議院選挙では立憲野党の拡大に向け、広範な闘いを。9月の国労議員団・千葉信吉一関市議選に奮闘する。

■特別発言・貨物

東京・森岡さん

事故や事象が相次ぎ、新山口駅の脱線は、他の列車を巻き込んで鶴見事故のような大惨事に繋がりがねない。過労による健康被害があり退職を選ぶ仲間もあり、こうした事態をつかむことが組合に求められる。ある先輩は「あと3年は



俺たちがいる。安心しろ」と言ったが、あと3年しかない厳しい現実。若手の横のつながりを作るだけでなく、東日本本部が労働者の真の味方として闘う展望を示せるかを問われている。

社友会は会社の利益を代表する組織であり、労働者を分断し競争を駆り立てるもの。貨物会社の新人人事賃金制度も安全や利便性が損なわれている列車・駅・職場状況を見ればあきらまか。今後も国労運動の継承・発展のため奮闘する決意。

■特別発言・東日本

東京・飯田さん

職場は横浜電力設備技セ。融合と連携が進められてきている。設備職場で一番利益を出すことは、設備を保守し、安心して列車に乗れるようにすること。P会社の業務内容は「別会社だから手が出せない」というが、そこをやらないと安全は確保できない。P会社を含めて安心して業務ができる態勢を作ろう。

各メセに、設計業務を持たせる話が出ている。今でも非番でも帰らずこなす人がいる。昨年離職した方は「業務がツライ。会社にいくら言っても改善されない」と言っていた。

横浜電力の組合員は本体には3名。先輩が退職し、全ての運動を引き継ぐことはできていない。まずはできることを行なっていく。

書記長集約



「安全・安定」輸送確保、安心して働き続けられる職場づくりに向けて

JR東日本会社は「変革2027」の実現に向け様々な施策を進めています。委員の報告からも分かるとおり、技術継承がどうなるのか、新たな業務がやり切れることなどで、職場での不安や疑問の声が大きくなっています。

中間答弁

65歳以上の雇用については申1号でも求めています。65歳定年制を含め、引き続き強く求めていきます。

組合員資格については、地方の決定は重く受け止め、執行委員会でも議論してきています。

LiViITの掲示板等については、こちらの不備で遅れた部分もありますが、

ています。その都度、原因究明と再発防止について求めて来ましたが、引き続き検証を進め改善を求めていきます。

会社は、コロナ前には戻らないことを強調しながら「変革のスピードアップ」を明言しています。会社幹部自らが職場に足を運び、つかんだ都合の良い社員の「声」を社員の発意として、巧みに施策の推進力として利用してきています。

東日本本部はアンケートの取り組みから、社員の会社に対する素直な声をつかみ、申1号交渉では、育児・介護関連休暇等の昇給調整条項の見直し、奨学金代理返還制度の新設、保存休暇の取得要件の見直し、コロナワクチン接種費用の会社負担など国労要求の前進を図ってきました。引き続き取り組みの強化を図っていきます。

グループ会社の労働条件

設置に向けて会社に強く求めていきます。貨物の人事賃金制度については、アンケート調査を実施しているところであり、他労組を含め、参加の呼びかけをお願いします。

JR世代組合員の学習の場については、これまでもJR世代交流会を開催してきたところ。その中で労働協約の具体的な内容などについて学習する場を設けていきます。

改善についても報告をいたしてきました。JESSでは、賃金交渉に合わせた制度、職場の改善について本社に求めてきました。若手社員が退職している状況もあり、引き続き労働条件の改善に向けて取り組みを図っていくこととします。

25春闘について

ローカル線問題問題については、津軽線、米坂線、委員から発言があった吾妻線について議論がされてきています。久留里線では、昨年11月に事実上の廃線を発表しました。本部と連携して国交省要請等を継続して行い、また、各都県交運労協とも連携し、採算だけの議論にならないように求めていきます。

組織強化・拡大について

2月13日にJR7社に対して申し入れを行い、国労の25春闘がスタートします。今回も東日本本部では賃金実態アンケートを実施します。春闘を意識させ労働組合の役割と必要性を広めるために、未加入者へも呼び掛けていただくことを強く要請します。

同時期に取り組まれる、職場過半数代表者選挙を通じて、労安委員での柔軟な対応など信頼関係を築くことも組織拡大につながることであり、各組合員が意識的に動くことを要請します。

国鉄採用組合員はほぼ全員が退職を迎えて再雇用となつています。そういった状況を受け、昨年の定期大会にて、2地本体制を決定し、今年7月1日の立ち上げを確認してきたところでもあります。

組織の拡大なくしては国労運動の継承・発展はありません。JR東日本においては、労働組合加入者は現役社員の14.6%。アンケートでは、不安や不満などにより、労働組合は必要と感じている社員が回答者の6割となつていますが、労働組合とは一線を引くという回答も多くありました。会社の賃下げへの不満や

平和と民主主義を守る闘いについて

「変革」のスピードアップに違和感を覚え、退職を選択する若手社員が新入社員数を上回っている状況が続いています。この1年で加入した仙台的の4名の仲間は、再雇用となつても、つながり続けたこと、転勤となり職場から離れてからも、悩みに寄り添い続けたことが加入に結びついていると報告がされています。取り組みに学び、一人ひとりができることから取り組んでいただくことをお願いします。

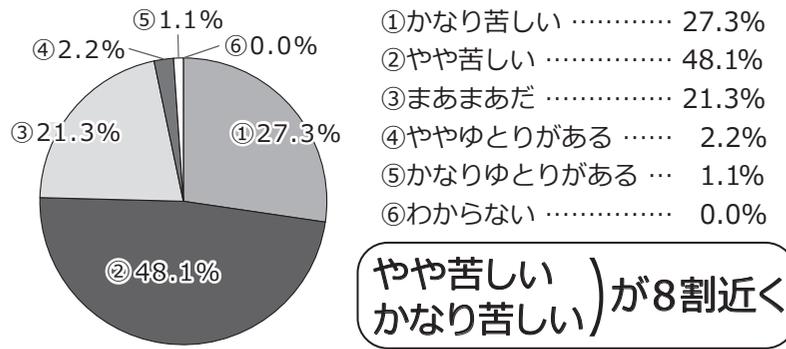
先の衆議院選挙において、与党が過半数割れとなりました。しかし補正予算で、敵国まで攻め込む兵器購入を国民民主党や日本維新の会も賛成に回る状況で、国民の命を守る政治を取り戻すことが求められています。石破政権は、これまでの自民党政権が進めてきた政策を引き継いでいることから

も、夏に行われる参議院選挙に対する取り組みを強化していくことが求められています。体制整備や国鉄世代からJR世代への運動の継承など、私たちの置かれた状況、課題は山積していますが、9地本本部が団結して運動の前進を図っていただく事をお願いし、第42回拡大委員会集約とします。

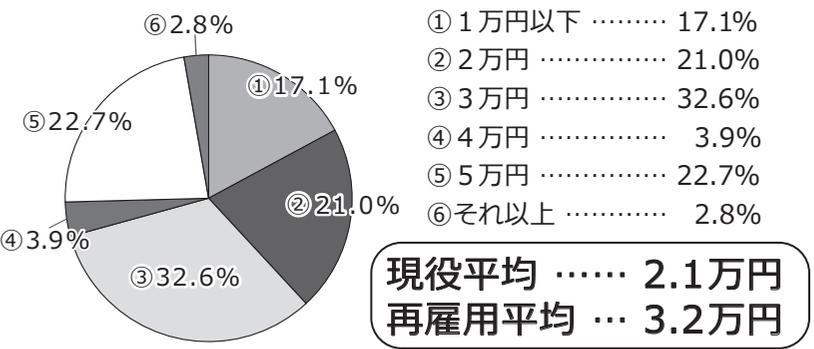
体制整備や国鉄世代からJR世代への運動の継承など、私たちの置かれた状況、課題は山積していますが、9地本本部が団結して運動の前進を図っていただく事をお願いし、第42回拡大委員会集約とします。

25春闘・夏季手当アンケート 中間報告

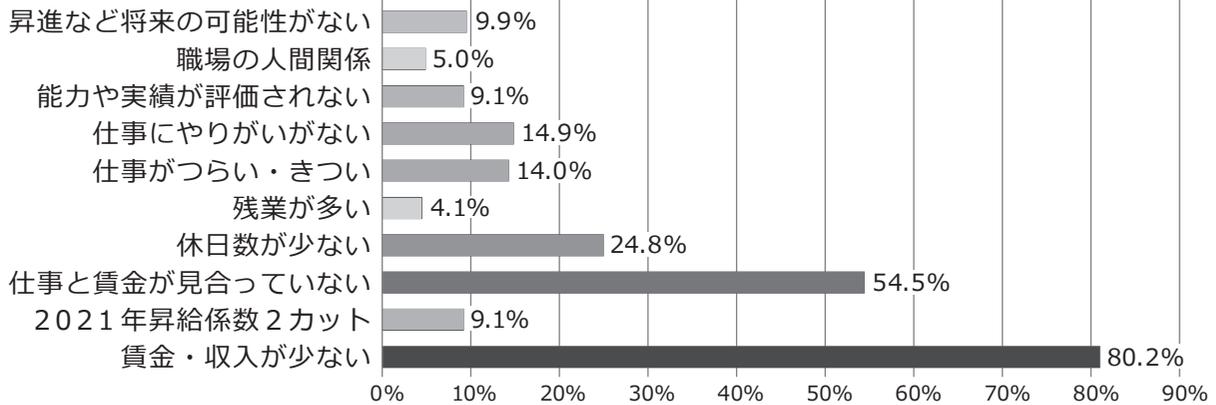
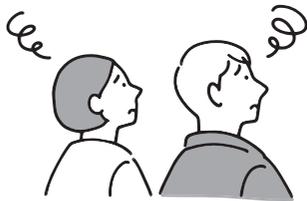
◎あなたの生活実態は次のうちどれに該当しますか？



◎あなたは2025年春闘で月額いくらの上が必要ですか？



◎あなたの会社で、不満に感じていることを教えてください。(複数回答あり)



◎会社に伝えたいこと、言いたいこと (主な意見を抜粋)

- 業務効率化やIT化、人員削減も大事なのはわかるが、採用活動のあり方(ミスマッチを減らす)や若手・中堅・ベテラン社員 全ての方のフォロー、労働環境(時間や負担、ハラスメント)など、会社として人財への意識向上をし、辞めない・続けたいと思える会社づくりにも注力してほしい。
- 要員を増やし、安全とサービスを向上すべき。
- 委託料がもう少し増えるとありがたいです。仕事量に対して給料がもう少し増えてくれるとさらにやりがいが出ると思います。
- 家庭環境や状況、適性等も踏まえて異動や職制を考えてほしい。
- グループ会社は本体と同じ業務内容なのに、福利厚生や賃金において格差が広がり退職者が多いのでいい加減改善してほしい。
- 手当の拡充と年間昇給金額をあげないと話にならない。どれほどJRの利益の為に使われているのか？怒りしかない。
- 物価が上がり続けているのに賃金が上がらないのはおかしい。
- 各会社で人の取り合いになってる中で選んでもらえる待遇を増やしてほしい。

- あれこれ言い訳しないで事実現に基づいた資料を示して回答するように。
- 社員と家族の幸福を本当に願うのであれば、物価高を上回る賃上げをお願いします。
- 社員と意見交換を積極的にやってほしい。一人一人意見が異なると思う。また、全て受け入れられるとは思わないが、少しでも社員に報いてほしいし、その気持ちを見せてほしい。
- いつまで経っても収入はあがらない。生活改善できる賃上げを！
- グループ会社、協力会社への委託料を上げてほしい。
- P社で保存休暇を取得できる様にされたい。
- 生活必要賃金に不満が出れば、人材は流れていく。
- エルダー社員の寒冷地手当は必要。差別だ。
- 各職場の要員が不足していて年休が取りづらい。
- 65歳以降も安心して働ける環境を整備していただきたい。
- 経営第一、収益第一の姿勢をあらため、社員の声を大事にする会社になってほしい。
- 同一労働同一賃金65歳定年制を実現しろ。
- 要員の確保、エルダー社員配偶者のドック毎年受診の補助。
- 考えられない事故が起きている。安全をおろそかにすると信用を失墜する。
- 出向先もせめて本体並の休日数にしてほしい。
- エルダーの賃金が低すぎる。出向先は人員不足で労働条件が劣悪。年休も入らない実態もある。JR東日本は発注元として、委託する会社に対し受注金額を引き上げるとか、働く者の労働条件引き上げに指導すべき。職場は破綻している。事故も無くならない。

がん保険にできることを、もっと。

No.1 アフラックがん保険・医療保険保有契約数 (令和3年度 インシチュアランス生命保険統計)

「生きる」を創るがん保険 WINGS

- 幅広い保障で経済的負担をサポート**
治療前の検査から治療後の外見ケアまで幅広い保障でしっかり備えることができます。
- 付帯サービスがアフラックのよりそうがん相談サポート^(※1)**
(2023年1月23日サービス提供開始予定)
アフラックのよりそうがん相談サポーターがさまざまな悩みの解決をサポート
「がんかもしれない」と思ったときから専門知識を持つ相談員が親身にお応えします。

(※1) アフラックのよりそうがん相談サポートはHatch Healthcare株式会社またはHatch Healthcare株式会社の提携先が提供するサービスであり、アフラックの保険契約による保障内容ではありません。サービスの詳細は、アフラックオフィシャルホームページ(https://www.afiac.co.jp/keiyaku/gansoudansupport.html)をご確認ください。

(募集代理店)(アフラックは代理店制度を採用しています) **アベニール株式会社**
〒105-0004 東京都港区新橋5-15-5 交通ビル3階
TEL.03-3437-6810 FAX.03-3437-6822

(引受保険会社) **Affac**
「生きる」を創る。アフラック 東京第二法人営業部
東京都千代田区丸の内1-6-1 丸の内センタービル19階
TEL.03-6385-9829 FAX.03-3218-3885

25春闘・夏季手当アンケート 継続中!

今現在、各会社との間で交渉およびそれに向けた取り組みが行われており、それぞれの回答が出されるまでの間、アンケートの取り組みを継続しています！みなさまのご協力よろしくお祈いします！